



東京大学
THE UNIVERSITY OF TOKYO

学内広報

for communication across the UT



特集：
学内広報、リニューアル！

2006.1.11

No. 1327

学内広報 リニューアル!

かねてより教職員の皆さんに親しまれてきた「学内広報」をリニューアルしました。自律分散協調系の基盤形成のための学内コミュニケーションの活性化は「東京大学アクションプラン2005-2008」にも掲げられており、「『学内広報』の内容や流通方法の見直し、改善による、基本情報や問題意識の共有、異なる学問分野への知的関心の越境の促進」が目標となっています。今後、双方向メディアとして魅力的な誌面作りを進めていきます。

「学内広報」が、こう変わる!



- 重要事項は必ず掲載される

信頼メディア に。

- 見やすい、わかりやすい、おもしろい

魅力的メディア に。

- あなたの意見が反映される

双方向メディア に。

「学内広報」は
読者の皆さんと一緒に作る
コミュニケーションメディアです。

「学内広報」は各部局や本部各課などから寄せられたニュース原稿、インフォメーション原稿によって成り立っています。

今回のリニューアルにあたっては、ニュースやお知らせだけでなく、個人的な意見も積極的に誌面に反映していく形をめざしています。いわば、読者の皆さんすべてが誌面の制作者。

このメディアを魅力的に成長させていくために、ぜひとも多くの情報・ご意見をお寄せくださるよう、編集スタッフ一同、心よりお待ちしております。

注目

新コーナー その①

<UTカフェ> ご意見・ご感想をお寄せください!

読者コメントを掲載するコーナー。「学内広報」に掲載された記事に関するご意見・ご感想をはじめ、学内の様々な事柄に関して常々思っていることなどを、気軽にお寄せください。

「学内広報」に関する貴重なご意見は積極的に誌面作りに反映させていく予定です。

誌上にてコメントを紹介する際には、本名、ペンネーム、匿名希望のいずれかを選択することができます。なおいただいたご意見は、すべてを掲載することができない場合もありますので、あらかじめご了承ください。



投稿方法

投稿先メールアドレス → kouhou-ex@adm.u-tokyo.ac.jp

投稿はEメールで受け付けます。メールの本文に以下の項目を記入し、上記アドレスまでお送りください。メールの件名は「意見」としてください。

誌面への掲載はペンネーム・匿名が可能ですが、連絡用として投稿の際には氏名・所属をご記入ください。

- ①氏名・所属
- ②連絡先電話番号
- ③本名・匿名・ペンネームの希望
(ペンネームの場合は具体的に記入)
- ④タイトル(20字以内)
- ⑤本文(300字以内)

「東大川柳」も同時募集

「UTカフェ」では、東京大学をテーマにした「東大川柳」も同時募集します。本学関係者であればこそわかる「あるあるネタ」などを川柳にしてお寄せください。優秀作は不定期で「UTカフェ」に掲載します。

川柳の投稿の際には、メールの件名を「川柳」とし、④に川柳をご記入ください(⑤はなし)。

例えば

赴任して 何年経っても キャンパスマップ (放浪者)
時計台 ゼンマイ誰が 巻くのかな (げんぼう)

注目

新コーナー その②

<東大人物図鑑> 人物紹介コーナー

学内の魅力的な人物を毎号ひとりずつ紹介していくコーナーを、現在準備しています。ご登場いただく方には、学内広報編集スタッフが取材にうかがい、記事を制作します。「こんな面白いことをやっている」「こんな特技を持っている」などなど、様々な方々を教員・職員の区別なく紹介していく予定ですので、ぜひご期待ください。

「この人を」と思われる方の情報も受け付けています。メールにてご推薦ください。あなたの部局の人気者が全学の人気者になる日も近い!? さあ、推薦しましょう!

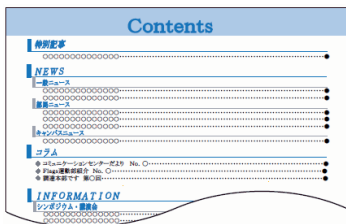
送付先メールアドレス : kouhou-ex@adm.u-tokyo.ac.jp



本部棟の人気者
いちょうさん

デザインも一新。見やすく使いやすいデザインに！

① 目次が見やすく



目次を、裏表紙の前のページに移動し、「それぞれのニュース項目がどのページに掲載されているか」をわかりやすく表示しました。これにより、目的の記事を効率的に探せるようになりました。

また、表紙・裏表紙のデザインもリニューアルしました。

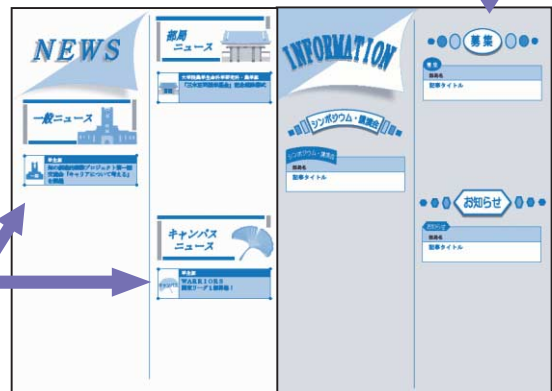
② NEWS & INFORMATIONに大別

今回のリニューアルでは、NEWSとINFORMATIONに情報を大別しました。NEWSには一般ニュース、部局ニュース、キャンパスニュースの内容が掲載されます。INFORMATIONのページには行事予定や募集のお知らせなどが掲載されます。

INFORMATIONページはグレーの地が敷いてあるので一目でNEWSと区別できます

デザインとしては、INFORMATIONページに地に薄いグレーを敷き、それぞれの情報の見出しにアイコンをつけました。

見出しの前についたアイコンを見れば、どのジャンルに属する情報なのか、判別できます



ご存じですか? 好評掲載中の特別記事&連載コラム

特別記事



現在、毎号の巻頭に雑誌テイストの特別記事を掲載しています。この特別記事では野口聡一さん凱旋パレードやホームカミングデイなどの学内イベントリポートから、調達本部や環境安全本部などの現状リポートまで、様々な事柄を取り上げてきました。今後は学内のお役立ち情報や楽しい読み物記事などの掲載も企画しています。

連載コラム

現在、すでに「コミュニケーションセンターだより」「調達本部です」「Flags」という3本の連載コラムが掲載されています。今回のリニューアルではこれらの連載を誌面の一箇所に集結させました。



Flags 各運動部の個性が光る内容となっています

コミュニケーションセンターだより 新商品情報や展示案内、売れ筋ランキングなどを紹介

調達本部です 様々な調達改善の取組を、具体的に解説



※ 今号は「調達本部です」はお休みです。

NEWS



人事部
今年度の定年退職教員は54名

一般

平成18年3月31日をもって本学を定年により退職される予定の教員（講師以上）は、下記の教授48名、助教授2名、講師4名の計54名です。

（平成18年1月11日現在）

部局	職名	氏名
大・法	教授	高橋和之
大・医	教授	上野照剛
大・工	教授	坂本功
大・工	教授	岡部洋一
大・工	教授	菅野幹宏
大・工	教授	矢木修身
大・文	教授	佐藤康邦
大・文	教授	櫻井万里子
大・文	教授	後藤直
大・文	教授	河野元昭
大・文	教授	小島孝之
大・文	教授	田村毅
大・文	教授	秋山弘子
大・文	教授	似田貝香門
大・文	教授	宇田川洋
大・文	講師	小野進
大・理	教授	小林孝嘉

大・理	教授	山岸皓彦
大・理	教授	太田俊明
大・理	教授	東江昭夫
大・理	教授	小林昭子
大・理	教授	祖父江義明
大・農	教授	山口五十磨
大・農	教授	小林洋司
大・農	教授	八木宏典
大・農	教授	飯塚堯介
大・農	教授	小野擴邦
大・農	教授	谷田貝光克
大・農	教授	東條英昭
大・農	教授	土井邦雄
大・農	教授	小川博之
大・農	講師	宮本克己
大・養	教授	義江彰夫
大・養	教授	伊藤亞人
大・養	教授	小林寛道
大・養	教授	小牧研一郎
創域	教授	熊谷洋一
創域	教授	渡邊達三
創域	教授	辻隆之
学環	教授	原洋之介
情理	教授	小柳義夫
情理	教授	岡部靖憲
情理	教授	青山友紀
地震	助教授	工藤一嘉
社研	教授	田端博邦
生研	教授	今井秀樹
生研	教授	増沢隆久
史料	教授	酒井信彦
分生	教授	鶴尾隆
海洋	講師	乙部弘隆
海洋	講師	蓮本浩志
総博	教授	大場秀章
総博	教授	田賀井篤平
環境	助教授	鈴木良實



研究協力部

平成17年度第2回「東京大学外国人留学生支援基金奨学生証書授与式」開催される

教職員の皆様方からの寄附金で運用されている「東京大学外国人留学生支援基金」は、平成17年度第2回奨学生（奨学金月額5万円／支給期間：平成17年10月～平成18年3月）として10名の留学生を採用し、12月1日（木）に同基金奨学生証書授与式を開催した。

同授与式においては、飯塚留学生センター長（外国人留学生支援基金運営委員会副委員長）及び内山研究協力部長（同委員会委員）の臨席の下、古田理事（同委員会委員長）から奨学生に証書が手交され、「本奨学金は、教職員、卒業生等の方々の善意によるものであるので、奨学生となった誇りを持って研究・勉学に励んでほしい」との挨拶があった後、奨学生代表の大学院総合文化研究科修士課程在籍の崔勇さんから、「外国人留学生支援基金の奨学生として、寄附者からの応援と期待に応えるべく、勉学と研究に励み、満足できる成果を出せるように一生懸命努力したい」との謝辞が述べられた。

同奨学金は、基金の趣旨に御賛同いただいた教職員、卒業生及び関係者の御支援の賜物であり、ここに重ねて御礼申し上げる次第である。



外国人留学生支援基金平成17年度第2回奨学生

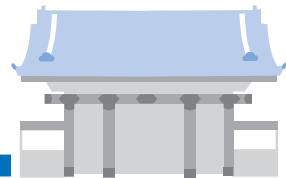


スピーチを行う 崔 勇さん（大学院総合文化研究科）

<問い合わせ先>

研究協力部留学生課支援チーム 内線22372

部局 ニュース



大学院工学系研究科・工学部

第1回ソウル国立大―清華大―東大工学系合同シンポジウムおよびサテライトワークショップの開催

大学院工学系研究科では、11月9日（水）9:00～17:30に、本郷キャンパス武田ホールにおいて第1回ソウル国立大―清華大―東大工学系合同シンポジウムを開催した。このシンポジウムは、日中韓のトップ3大学の工学系における研究・教育の連携を強めるべく平尾公彦工学系研究科長が一昨年秋に提案し、ソウル国立大学・清華大学から賛同を得て実現したものである。

小宮山宏総長、平尾研究科長、金道然ソウル国立大学工学部長、潘偉清華大学教授のオープニング挨拶で幕を開け、各大学における工学研究と教育の現状と将来展望について3大学から3名ずつ計9名の教授による講演があった。参加者総数は約150名で、講演に対し活発な討論があった。なおシンポジウムの中で、研究科レベルの3大学間学術交流協定の調印式とマテリアル工学分野での専攻レベルの交流協定調印式も合わせて行われた。シンポジウムに引き続き行われた懇親会も盛会であり、和やかに歓談が交わされた。



平尾研究科長による挨拶

翌10日（木）には、工学系研究科内で進められている3つの21世紀COEプロジェクト、「未来社会を担うエレクトロニクスの展開」、「機械システム・イノベーション」、「化学を基盤とするヒューマンマテリアル創成」の協力を得て、電気・電子工学、航空宇宙工学、マテリア

ル工学の3分野におけるサテライトワークショップがいずれも本郷キャンパス内で開催された(マテリアル工学分野は11日(金)まで開催)。シンポジウムとは異なり、ワークショップは大学院生の講演を中心に進められた。

シンポジウムおよびサテライトワークショップのためにソウル国立大学・清華大学から本学を訪問した教員総数は22名、大学院生総数は43名に上り、交流を大いに深めることができた。また、「この機会を通じて3大学間の連携を強めることが有意義であると改めて認識した」との声が多く聞かれた。次回シンポジウムは来年清華大学(北京)にて開催予定である。



シンポジウム風景

大学院人文社会系研究科・文学部

人文社会系研究科外国人留学生見学旅行を実施

部局

12月2日(金)・3日(土)の両日、恒例の外国人留学生見学旅行を実施した。参加者は、留学生28人、引率の教職員等8人の合計36人。

当日は9時過ぎに参加者を乗せた貸し切りバスが本郷の総合図書館横から出発。上信越道を北上し、正午には日本を代表する画家、葛飾北斎の支援者である高井鴻山の故郷、信州北信濃の小布施町に到着。名産「小布施栗」を使った栗おこわに舌鼓を打った後、北斎館、高井鴻山記念館、岩松院、あかりの博物館などを見学。それぞれの施設が徒歩5分圏内にあるため、短時間でありながら多数の展示品をじっくり鑑賞することができた。

“日本の普通の田舎を実感する”というテーマを体感するため、町の中心から果樹畑の中を移動。“一休さん”が飛び出してきたような山の麓の岩松院(八方睨み鳳凰図で高名)では、先代和尚から実に愉快で為になる抱腹絶倒解説をお聞かせいただく機会に恵まれた。

その後、宿泊地である千曲川沿いの稲荷山へ。到着後小雪の舞う温泉で汗をながし、夕食をかねた懇親会を行った。和やかな雰囲気の中、参加者相互の親睦を深めあった。しばし休憩の後、2次会・3次会と普段語り合う

ことのない異分野の研究者の卵達は深夜まで討論をかわしていた。

明けて12月3日。空模様は「小雪」。生まれて初めて見る雪に思わず歓声を上げる留学生もいた。朝食後千曲川沿いの果樹畑を両側に見ながら一路、長野市へ。

到着後、信濃美術館にて人間国宝松井康成の陶芸、東山魁夷の絵画を鑑賞した後、牛にひかれて善光寺参り。「触れると新しい自分に生まれかわることができる」と信じられている「極楽の錠前」を探すため、全員が「お戒壇めぐり」へ。そこは一切の光が無い迷路のような廊下。その錠前に触れて無事出口に辿り着いた者が何人いたのかは定かではない。寺内の宿坊で精進料理による昼食を済ませ、最後の目的地である須坂市へ。ここで江戸～昭和の豪商であった田中本家を見学。絹織物で財を築いた田中家の栄華を感じながら、15時半過ぎに帰路についた。



信濃美術館前

途中多少の交通渋滞はあったが、予定時刻どおりに本郷キャンパスに到着。こうして今年の見学旅行は、日本のごく普通の田舎町を実感しながら、歴史と美しい自然さらには留学生同士の触れ合いなど、参加者に多くの思い出を残し無事終了した。



善光寺本殿前

「2005年大学生交流プログラム」
開催される

部局

UNESCOアジア文化センターと本学の共催により、11月7日（月）から11月20日（日）までの2週間にわたって、東京大学本郷キャンパス～広島～白川郷を舞台に「2005年大学生交流プログラム」が開催された。テーマは「科学を通して考える宇宙・地球・愛」。このプログラムは科学の進歩による功罪に触れ、海外・日本で科学研究を志すプログラム参加学生に、人々との交流を通して地球・宇宙そして愛（平和）を考える機会を与えようとするものであった。

参加者は、東京大学及び理学部が交流協定を結んでいる韓国のKAIST（韓国科学技術院）と中国上海の復旦大学の学部生。両大学から5名ずつと理学部の学生5名を加え、3カ国の学生15名（直前に急用で1名が不参加となり実質14名）。

講演会・シンポジウム・セミナーなどに参加するほか、週末のホームステイで、短いながら日本の生活習慣・文化・考え方などを体験した。2週目は広島へ移動し、原爆ドームや平和記念資料館の見学、広島大学主催の4大学の学生によるワークショップで時間を忘れた熱いディスカッションなどが行われた。プログラムの最後には、科学の進歩と対極にある「白川郷・五箇山の合掌造り集落」を訪れ、合掌の宿に実際に宿泊しながら今回のプログラムの目的と意義について話し合いが持たれた。

アカデミックな交流のみに終始しがちな大学のプログラムにあって、アジアの大学生が集まり科学を通じた交流の中で、広い視野に立った地球環境・平和などを考える大変密度の高い2週間のプログラムであった。



広島大学平和プロジェクトチームの皆さんとプログラム参加者（KAIST、復旦大学、東京大学）、Workshop in Hiroshima

三鷹国際学生宿舎で「三鷹市民と三鷹国際学生宿舎生との集い」開催される

部局

12月10日（土）11:00から、三鷹国際学生宿舎において、三鷹市の後援、（財）三鷹国際交流協会（三鷹市において国際交流を推進している団体）との共催により「三鷹市民と三鷹国際学生宿舎生との集い」が開催された。

この集いは、宿舎に居住する宿舎生、とりわけ3割を占めている留学生と地域住民との交流を目的として毎年開催しているものであり、平成6年に第1回を開催して以来、今回で12回目となる。



村上郁也助教授による講演

この集いは二部構成となっており、開催に先立ち木畑洋一大学院総合文化研究科長・教養学部長から挨拶があり、引き続き堀宏（財）三鷹国際交流協会副理事長の挨拶の後、第一部として村上郁也大学院総合文化研究科・教養学部助教授による「錯覚からわかる脳のしくみ」と題した講演が行われ、約80名の三鷹市民等が聴講した。

また、講演の後、訪れた三鷹市民の方々に宿舎への理解を深めてもらうため、職員の案内で居室等宿舎の内部を一部公開した。



挨拶する清原慶子三鷹市長

第二部は、清原慶子三鷹市長の挨拶に続き、宿舎生を代表して、野田周平三鷹国際学生宿舎院生会幹事長の乾杯の発声により懇親パーティーが開始された。三鷹市民、三鷹国際交流協会会員、三鷹クラブ（旧三鷹寮OBの会）会員等に宿舎生も加わり、約170名の参加者を得た。パーティーの中では、三鷹クラブからの出席者や宿舎生・留学生の挨拶も披露され、会場の共用棟ホール一杯に和やかな交流の和が広がっていた。

最後に、宮川雅雄教養学部等事務部長の挨拶をもって、集いは盛会のうちに終了した。



懇親会

大学院薬学系研究科・薬学部

柴崎教授、不斉触媒分野引用回数で世界第1位に

研究者の業績評価、大学の研究評価、国別の研究評価等で世界的に知られるISI Essential Science Indicators, Thomson Scientific（トムソンISI社、米国、フィラデルフィア）が、左手分子と右手分子を作り分ける不斉触媒研究に関する論文の引用回数を1月3日（木）発表した。

この分野では野依良治理化学研究所理事長等が分子に水素を付加する還元触媒等でノーベル化学賞を受賞しているが、化学反応の根源である炭素-炭素結合反応でさらなる飛躍的發展が成されている。このため、トムソンISI社がトピックスとして選択したものと思われる。引用回数は1995年1月1日から2005年8月31日に発表された論文について調べられた。

その結果、本学大学院薬学系研究科の柴崎正勝教授らの論文110本が総引用回数3,985回で世界第1位となった。第1位の理由としては柴崎教授らが1990年頃より提唱している多点認識型不斉触媒の独創性が世界的に注目されているためと思われる。なお、柴崎触媒はこれまで以上に今後創薬研究等に多大な影響を与える事が予想されている。

機関別ランキングでも東大は第1位、国別ランキング

では日本は第2位となった。日本発の科学が世界を完全にリードしている確固たる証拠であり、科学創造立国を目指す日本にとっても朗報である。尚、詳しい情報は下記ホームページに掲載されている。

<http://esi-topics.com/asy-cat/>

大学院薬学系研究科・薬学部

薬学系研究科留学生見学旅行を実施

10月27日（木）、大学院薬学系研究科の留学生見学旅行が実施された。当日は、朝からの雨の中、留学生、日本人チューター、引率の教職員等総勢27名が薬学系研究科本館正面玄関に7時45分集合し、8時を少し遅れて出発した。天気予報ではだんだん晴れてくるはずだったが、雨はますます強くなるばかり。首都高速、東北自動車道を経て、栃木県下都賀郡野木町の杏林製薬（株）創薬研究所に10時に予定通り到着した。

研究所では所長自らが出迎え、研究所の概要を説明してくださった。その後、有機合成、分子生物、薬理の3グループに分かれ所内を案内していただいた。各グループでは、案内して下さった研究員と活発なディスカッションがなされていた。

昼食後、天気も回復してきた中、秩父武甲酒造へと向かった。これから仕込みが始まる時期のため実際の作業は見学できなかったが、日本酒がどのようにできるのか、吟醸、純米などの名前の違いと値段の関係などの説明があった。日本語が堪能でないと思われる部分が多かったと思われるが、皆、試飲では各種の日本酒を楽しそうに試していた。

武甲酒造での買い物の後、1時間ほど遅れて宿舎に到着。入浴、夕食の後、一部屋に集まって、自己紹介、福引きの後、ゲームや雑談に花が咲き、日付も変わる頃お開きとなった。



そば打ち体験

翌日は快晴であった。宿舎近くの秩父神社を見学した後に、そば打ち道場で自分たちで打ったそばを味わった。長瀬での川下りを楽しんだあと、川越の町並みを散策し、薄暗くなりかけた頃、バスは帰途についた。

製薬企業の最新の研究設備と伝統的な手作りによる酒蔵の見学、さらに晩秋の秩父路の美しい景色……日本の研究現場と文化に触れた充実した2日間であった。



時の鐘（川越市指定文化財）



報告する史料編纂所山本教授
(リスボン国立古代美術館にて)

史料編纂所

国際シンポジウム「日本とポルトガル」をリスボンで開催

部局

12月5日（月）・6日（火）、史料編纂所とポルトガル東南アジア研究センターの共催で、リスボンの国立古代美術館において国際シンポジウム「日本とポルトガル」が開催された。このシンポジウムは、日本とポルトガルの関係史および16～17世紀の国際関係を研究する若手研究者によって、新しい研究ネットワークの構築と情報交換、人的交流を目的に、日本EU友好記念事業として日本外務省からの支援を受けて開かれた。

当日は史料編纂所の山本博文教授による日本の近世初期外交史料の紹介を中心とした基調講演、16人の若手研究者による最新の研究成果を踏まえた研究報告がおこなわれた。会場には愛知万博ポルトガル館館長であったペドロ・カナバロ氏をはじめ、多数のポルトガルの教育・文化関係者、日本大使館からの出席があり、双方の研究状況や歴史認識の再確認のみならず、東京大学と史料編纂所の活動についてのより深い理解が得られた。両日の二つの総合討論ではそれぞれ「大航海時代の社会と文化」「歴史と宗教の相関」をテーマとして、日本とポルトガルの関係のみならず、インド、東南アジア、中国沿岸部を含めた16～17世紀の国際情勢について幅広い議論が展開された。今回のシンポジウムを契機に国際的な歴史認識と情報交換がさらに深まることが期待される。

原稿募集

「学内広報」に学内の情報をお寄せください。

- ・文字数800字以内（写真がある場合は文字数を控えるにしてください。）
- ・写真には、キャプション（説明文）を必ず添えてください。
- ・原稿は電子データで下記まで、メールまたは学内便でお送りください。

送付先 東京大学総務部広報課

TEL：03-3811-3393 内線：22031、82032

FAX：03-3816-3913

E-mail：kouhou@ml.adm.u-tokyo.ac.jp

原稿の締切は各月第1・3水曜日、配付は翌々週の火曜日です。ただし、該当日が祝日の場合を除きます。

平成17年度の学内広報の発行スケジュール

http://www.u-tokyo.ac.jp/gen03/kouhou_j.html

海洋研究所

海洋研究所防災訓練が行われる

部局

海洋研究所では、12月15日（木）13:30から約2時間にわたり、地震発生に伴い所内に火災が発生したとの想定で、中野消防署及び中野区の協力を得て防災訓練を行った。

当日は、館外への避難誘導の後、消火器使用の実践、屋内消火栓による放水、防火シャッター作動の確認、所内での煙体験及び垂直式救助袋を使用した地上3階からの脱出訓練に加え、起震車で地震体験を行うなど総合的な訓練が行われた。

また、200名を超える教職員、大学院生等が積極的に訓練に参加して実地の体験をしたことは、避難場所の確認、連絡要領の確認、その他災害発生時における行動のあり方について正しい知識を身につける機会となった。最後に、所長から「震災時には本日のように落ち着いて行動してほしい」との講評があり訓練は無事終了した。



ホースを使った放水訓練



震度7を体験できる起震車

総合研究博物館

公開講座「標本は語る—自然の体系を目指して」の終了

部局

11月28日（月）～12月2日（金）の日程で、現在、総合研究博物館にて開催中の特別展示「Systema Naturae—標本は語る」展に関連した公開講座「標本は語る—自然の体系を目指して」が下記のとおり開催された。実際にこの展示の企画に携わった学内外の講師により、本展示に沿ったテーマに関する講義が行われ、受講者たちは熱心に聴講していた。

全5回 各回2時間（15:00～17:00）

第1回 11月28日（月）

「『自然の体系』とその意義」

東京大学総合研究博物館・教授 大場秀章

第2回 11月29日（火）

「鉱物をめぐる自然の体系」

東京大学総合研究博物館・教授 田賀井篤平

第3回 11月30日（水）

「魚類をめぐる自然の体系」

おさかな普及センター資料館・館長 坂本一男

第4回 12月1日（木）

「貝類をめぐる自然の体系」

東京大学総合研究博物館・助手 佐々木猛智

第5回 12月2日（金）

「哺乳類をめぐる自然の体系」

東京大学総合研究博物館・助教授 高槻成紀

現在開催中の展示については、17ページのEVENT LISTに掲載されている。



総合研究博物館佐々木猛智助手の講義風景

アフガニスタンは妊婦死亡率1700/100万出生、乳児死亡率170/1000出生、栄養不良の子供の割合は40%と推定され、世界で最も保健状況の劣悪な国のひとつとされている。長期に及んだ内戦の結果、約35%（2002年、全国保健医療資源調査）の医療施設が破壊され、医師や看護師など多くの医療従事者が国外流出した。アフガニスタンにとって地域医療に従事する総合臨床医（General Practitioner: GP）の育成は緊急の課題である。

こうした状況を受けて、11月7日（月）から12月19日（月）までの6週間、医学教育国際協力研究センターで「アフガニスタン医学教育研修」が実施された。この研修はJICAが進める「アフガニスタン医学教育プロジェクト」の一環で、本年度はカブール医科大学から6名の教員が招かれ、アフガニスタンでの医学教育向上のための研修を受けた。



医学部総合中央館3階セミナー室で講義を受けるアフガン研修員

カリキュラムの内容は「医学教育一般」「GP養成」「カリキュラム開発」「PBL」「マルチメディア教材開発」など多岐にわたり、九州研修旅行では久留米、佐賀、長崎を訪れ、離島や離村の地域医療に取り組む大学病院、医療センターで講義を受けた。

12月11日（日）には、本学内外から医療系の学生と、既に国際協力の経験を積む医師、看護師、助産師を招き、「第1回医療系学生のための国際協力フォーラム」を開催した。同フォーラムではアフガン研修員と参加者がグループになってアフガニスタンの医療、医学教育の現状について話し合い、問題を抽出、改善のためのアプローチなどをディスカッションした。参加者、アフガン研修員ともに相互理解を深める国際交流の場となった。

12月15日（木）には、研修の集大成として「第5回医学教育国際協力研究フォーラム」を開催、研修員それぞれが帰国後の活動計画をまとめた「アクションプラン」を発表した。ソルーシュ・アフガニスタン大使がフォーラムに先立って、謝辞と「アフガニスタンと日本の歴史

的なつながり」を述べた。また、小児外科医でもあるハッサン・バーレーン大使の「医学教育の手法に関する特別講演」があり、感銘を与えた。



第5回医学教育国際協力研究フォーラム（12月15日）では活発な意見交換が行われた

アフガニスタンからの研修員達は皆、真面目で熱心、そして快活である。講義中は全員参加でディスカッションを行い、常にセンタースタッフや関係者に誠意と感謝の意を表し、休憩時間中はダリ語で冗談を言い合い、踊り、笑っている。研修員の真摯で明るい姿勢に、アフガニスタンの国民性が伺えた。センターにとってもアフガニスタンの医学教育に貢献できる喜びとアフガニスタンの豊かさを知った貴重な経験であった。センターでのアフガニスタン医学教育支援は今後2年半実施する予定である。



ソルーシュ・アフガニスタン大使



ハッサン・バーレーン大使

キャンパス ニュース



学生部

第52回水上運動会開催

キャンパス

12月10日（土）、埼玉県戸田市の戸田オリンピックボートコースにて第52回水上運動会が開催されました。当日は好天にも恵まれ、185人もの参加者が集まり盛大な大会となりました。

水上運動会は年々参加者数が減少しており近年に至っては開催さえも見送られていました。そこで、今回を復活元年として運動会総務部や漕艇部が一念発起して参加者集めに終始し、結果として多くの参加者の方にボートを楽しんでいただくことができました。



レース風景

大会は1チーム4人で参加し、漕艇部員がコックス（舵取りの役目を担う舵手のこと）となって4人乗りの艇に乗ります。そして、250mのタイムトライアルを2回行い合計タイムで順位を競う形式です。事前に経験の有無・男女の別を考慮に入れて組み合わせが決められていたので、どのレースでも艇が拮抗し、非常に迫力のあるレース展開となりました。また、エルゴメーターとい



エルゴメーター記録会風景

う陸上ボートトレーニングマシンを使ったチームリレーや個人競争も行われ、そちらの会場でも盛り上がりを見せていました。

今回は途中で甘酒が振舞われたりレース後には懇親会が行われたりと、漕艇部員以外は普段なかなか利用する機会のない東京大学戸田橋艇庫を参加者の皆さんが存分に活用できたという点でも非常に有意義な大会となりました。今回の復活元年を機に、今後も継続的に盛大に水上運動会を開催する予定です。来年も皆さん奮ってご参加下さい。

大会結果は以下の通りです。

第52回水上運動会結果

タイムトライアル結果

順位	チーム名	タイム	ハンデ	補正タイム
1	No work	2分39秒82	-6秒	2分33秒82
2	チーム宮下	2分29秒55	+10秒	2分39秒55
3	最強無敵エクセレント	2分22秒16	+20秒	2分42秒16
4	ニューメキシカン	2分34秒52	+10秒	2分44秒52
5	奈緒が一番	2分56秒93	-8秒	2分48秒93

エルゴリレー結果

順位	チーム名	タイム
1	最強無敵エクセレント	2分36秒07
2	チーム宮下	2分36秒30
3	No work	2分42秒60
4	奈緒が一番	2分44秒20
5	みんな5年目ボートクラブ	2分52秒40

今後の学内広報発行スケジュール

号数	原稿締切日	発行日	配布日
1328	1月18日（水）	1月25日（水）	1月31日（火）
1329	2月1日（水）	2月8日（水）	2月14日（火）
1330	2月15日（水）	2月22日（水）	2月28日（火）
1331	3月1日（水）	3月8日（水）	3月14日（火）
1332	3月15日（水）	3月22日（水）	3月29日（水）

庭球部

私達庭球部は本郷地区農学部グラウンドを活動の拠点としています。テニス自体は個人競技ではありますが、大学テニス部にとっての最大の目標は毎年9月に行われる関東大学テニスリーグという団体戦であり、そこでのチームとしての勝利、さらには上部昇格を目指しています。

私達は今年のリーグ戦で4勝1敗の5部2位という好成績を収め、続々入替戦でも4部6位の一橋大に勝利した結果、2年越しの目標であった4部昇格を果たしました。来年のリーグで対戦する他の4部校は、テニス推薦で有望な新入生が入学する大学も多く、そのため今年よりは厳しい戦いが予想されます。しかし、7年振りとなる3部昇格に向けて、代替り後の新体制のもと部員一丸となっています。



リーグ戦以外では京大戦・七大戦・東早戦・九大戦といった定期対抗戦もあり、これらの試合では試合以外にも他大の部員と交流する機会があります。また、関東学生本戦・インカレへの出場を目指し、年3回ある個人戦にも全部員が出場しています。

庭球部として全体で行う練習は平日3日と土曜日ですが、全体としての練習時間以外も部員各自が時間を見つけて練習したり、他大学と対抗戦を行って試合経験を積むなど、部員全員が強くなれるよう取り組んでいます。また、コーチは日本テニス界の第一人者である柳恵誌郎さんをお願いしており、技術面・精神面等幅広くご指導頂いています。

今後とも応援のほどよろしくお願ひします。
(庭球部 朝川 皓之)

★★DATA★★

- 人数：19名
- 練習場所：本郷地区農学部テニスコート
- 練習日：火・水・木 8:00~11:30
土 8:00~10:00、13:00~16:00
- 年間予定：5月 春季関東学生テニス選手権（個人戦）
6月 京大戦
7月 七大戦
8月 合宿
夏季関東学生テニス選手権（個人戦）
9月 関東大学テニスリーグ
11月 秋季リーグ
12月 東早戦（vs早稲田大学）
1月 教養戦（vs一橋大学）、九大戦
2月 新進テニス選手権（個人戦）
3月 合宿

今年度の成績：関東大学テニスリーグ4部昇格
(5部2位)

京大戦・教養戦勝利

HP：http://www5f.biglobe.ne.jp/~akmtns/
部長：井上正仁（大学院法学政治学専攻科教授）
監督：柳恵誌郎

ハンドボール部

ハンドボールは20m×40mのコート内でコートプレーヤー6人とゴールキーパー1人によって行われる競技で、その魅力はスピーディーな試合展開と空中戦、激しいボディコンタクトなどにあります。

私達ハンドボール部の部員全員がそのような魅力にとりつかれた者ばかりです。過去には部員数の不足で部の存続の危機に瀕した時期もありました。しかし近年、新歓活動に力を入れたことで新入部員が増加しました。現在は泉知行主将（工・3年）



を中心に活動しており、1、2年生が多いチームです。

普段の練習では声を出すことで雰囲気の良いものにするのを全員が心がけています。よいプレーは褒め、ミスに対しては厳しくすることでメリハリのある練習になるように努めています。また、OBや学外の方が練習に参加して下さるので質の高い練習が行われています。絶対的な指導者というのが不在ですが、その点は部員一人ひとりが考え、工夫することで補っています。



近年、関東学生リーグ2部昇格を目標にしていたが、このような努力が今回の秋季リーグで実を結びました。1位で突破した大東文化大学戦では接戦の末敗北したもの、全試合においてコート内外問わず部員全員が声を出し続けることで相手を飲み込むことができました。その結果6勝1敗の2位で入れ替え戦に進出、そしてそれに勝利することができ、18年ぶりに悲願の2部昇格を成し遂げました。

現在は冬場の基礎作りの期間として基本的なプレーや筋トレ、体力練などに励んでいます。次の目標は春季リーグで2部上位、全日本インカレ出場です。応援よろしくお願ひします。
(ハンドボール部 石田 慎)

★★DATA★★

- 創立：昭和25（1950）年
- 人数：18名（選手15名、マネージャー3名）
- 練習場所：駒場地区第一グラウンド
御殿下記念館ジムナジウム
- 練習日：火・木・日（駒場）、水・土（本郷）
- 年間予定：4~5月 春季リーグ
6月 京大定期戦
8月 八大戦（七大+神戸大）、夏季合宿
9~10月 秋季リーグ
1月 新年会
3月 春季合宿

今年度の成績：八大戦準優勝
関東学生秋季リーグ3部2位
(リーグ入れ替え戦(対明星大学)勝利
春季より2部リーグへ)

HP：http://www.geocities.jp/ut_handball/
部長：大木 康（東洋文化研究所教授）
監督：茂木伸仁

コミュニケーションセンターだより No.10

■ 新アイテムが登場！

コミュニケーションセンターでは、今年も東大オリジナルの新アイテムを発売してまいります。今回は2アイテムをご紹介します。

●アイテム1 : ストラップ付ボールペン



アルミ（一部真鍮）製でしっかりした質感があるボールペン。

キャップにはUTロゴが刻まれています。

長いストラップが付いていますので首から提げたりすることもできます。



価格 1本 3,150円

●アイテム2 : タオルハンカチ



UTロゴの刺繍が入ったタオル生地ハンカチも新登場。

素材は綿100%で吸水性も高く、使い勝手のいいアイテムです。



サイズ：250mm×250mm
カラー：白・黒
（裏面はどちらもグレー）
価格：1枚 840円

■ 新商品リクエスト募集中！

コミュニケーションセンターでは、みなさんから商品アイデアを募集しています。こんな商品を扱ってほしいというアイテムなどがありましたら下記までご連絡ください。連絡先：soga@adm.u-tokyo.ac.jp

（担当：渉外本部 曾我）



The University of Tokyo

東京大学コミュニケーションセンター
The University of Tokyo
Communication Center

OPEN：月曜～土曜 10：30～18：30

電話：03-5841-1039

http://www.u-tokyo.ac.jp/gen03/utcc01_j.html

INFORMATION

シンポジウム・講演会

シンポジウム・講演会

大学院工学系研究科・工学部

「東京大学ナノバイオ・インテグレーション研究拠点」設立記念シンポジウムのお知らせ

文部科学省「ナノテクノロジー・材料を中心とした融合新興分野研究開発」の予算により、「ナノバイオ・インテグレーション研究拠点」（平成22年3月までの時限）の開設を記念しまして、設立記念シンポジウムを開催致します。

日時：2月3日（金） 12:30～

場所：医学部鉄門記念講堂（医学部教育研究棟14階）

参加費：無料

プログラム

<開会の辞>

拠点リーダー

片岡 一則

東京大学総長

小宮山 宏

文部科学省材料開発推進室長

佐藤 透

大学院医学系研究科長

廣川 信隆

医学部附属病院長

永井 良三

<趣旨説明>

拠点リーダー

片岡 一則

<シンポジウム>

セルセラピーのためのナノテクノロジー・材料技術創製

細胞の機能解析・制御のためのナノテクノロジー・

材料技術

長棟 輝行

セルセラピーを実現するナノテクノロジー

三宅 淳

バイオインスパイアードナノマシン創製

ナノ加工に基づく生体適合型人工関節置換術

光石 衛

超分子化学的アプローチによるバイオミメティック

ナノ材料 相田 卓三

ナノバイオセンシング・システム創製

超高機能ナノバイオインターフェイス

石原 一彦

MEMS/NEMSに基づくバイオナノメカトロニクス

藤田 博之

<研究拠点の活動について>

プログラムマネジャー

物質・材料研究機構 堀池 靖浩

<閉会の辞>

大学院工学系研究科長

平尾 公彦

<懇親会>

レストラン「カポ・ペリカーノ」

(医学部教育研究棟13階) 17:00～ 懇親会受付

問い合わせ先:

ナノバイオ・インテグレーション研究拠点事務局

担当: ヤーネス

TEL: 03-5841-1509 FAX: 03-5841-1510

e-mail: CNBI@cnbi.t.u-tokyo.ac.jp

URL: <http://park.itc.u-tokyo.ac.jp/CNBI/index.html>

募集

募集

大学院情報学環・学際情報学府

平成18(2006)年度

大学院情報学環教育部研究生募集

大学院情報学環では、メディア、コミュニケーション研究をはじめとする学際的な情報学に関心を持つ人、実践的に情報分野で活躍したい人を対象として、平成18(2006)年度教育部研究生を次のとおり募集します。

募集人員 約50名

講義日程 毎週月曜日～金曜日

15時15分～16時55分

17時05分～18時45分

18時55分～20時35分

修業年限 2年

出願資格

1. 東京大学の2年次以上及び2年次に在学見込みの在学生または卒業生
2. 他大学の在学生で1.と同等の資格を持つ者または卒業生

出願期間

1月30日(月)～2月3日(金)

筆記試験

2月15日(水)14時～

試験科目

教養課程修了程度の基礎知識を問う問題。論述問題1問。

用語解説ないし短答式問題6問から2問選択。

面接試験

3月1日(水)9時半～

(筆記試験合格者に対して行う)

合格発表

3月13日(月)13時

※ 募集要項は情報学環学務係にて配布中

お知らせ

お知らせ

大学院総合文化研究科・教養学部

「教養学部報」第489(1月11日)号の発行
—教員による、学生のための学内新聞—

「教養学部報」は、教養学部の正門傍、掲示板前、学際交流棟ロビー、生協書籍部、保健センター駒場支所で無料配布しています。バックナンバーもあります。

第489(1月11日)号の内容は以下のとおりとなっていますので、ぜひご覧ください。

尾中 篤: 2005年ノーベル化学賞の紹介『メタセシス反応の開発』

河合祥一郎: ハロルド・ピンターのノーベル文学賞受賞

久我隆弘: 2005年ノーベル物理学賞

竹野太三: 合理的思考の力とその限界、そしてその向こうへ

森井裕一: ドイツ・ヨーロッパ研究センターの発足について

油井大三郎: 太平洋共同体は可能か『変貌するアメリカ太平洋世界』全6巻の完結によせて

内田隆三: アメリカ野球の季節から

<駒場をあとに・送ることば>

義江彰夫: 駒場に育まれた私

三谷 博: 義江彰夫先生を送る

小牧研一郎: 駒場四十四年の思い出

山崎泰規: 小牧研一郎先生の駒場卒業

瀧田佳子: 銀杏、桜、そして9号館のつるバラ

林 文代: 瀧田佳子先生を送る

〈学び方〉新シリーズ

佐藤直樹：東大生流生物学の学び方

村上郁也：心理学、「心理学」

〈本の棚〉

三谷 博：神野志隆光著『「日本」とは何か 国号の意味と歴史』推理の醍醐味

斎藤兆史：平川祐弘著『Japan's Love-Hate Relationship with the West,』

〈時に沿って〉

水澤直樹：故郷からの贈り物

井上 健：わが原点としての駒場

お知らせ

情報基盤センター

データベース定期講習会のお知らせ

情報基盤センター図書館電子化部門では、下記のとおりデータベース定期講習会を実施します。

本学にご所属であればどなたでも参加できます。どうぞお気軽にご参加ください。

また、外国人講師による英語編も好評実施中です。2～3月の英語編スケジュールは、決定次第、講習会ホームページでお知らせします。

●会場

総合図書館1階 講習会コーナー

●定員

12名（先着順。予約不要です。会場に直接お越しください。）

●各コースの内容

30分コース

目的ごとにどんなデータベースがあるかを知りたい方、短時間で知識を得たい方には、こちらがおすすめです。

- ◆本をさがす編 ◆雑誌をさがす編
- ◆新聞をさがす編 ◆統計をさがす編

60分コース

特定のデータベースについての解説や、検索実習が中心の講習を受けたい方には、こちらがおすすめです。

- ◆OPAC入門編 ◆FELIX編
- ◆Web of Science編 ◆電子ジャーナル編

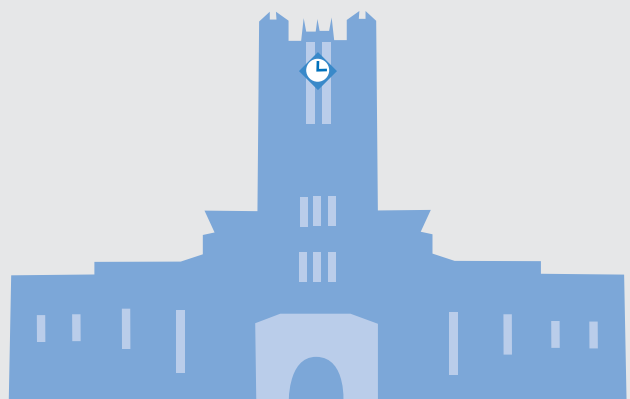
●2～3月の定期講習会スケジュール

月	火	水	木	金
		2/1	2/2	2/3 17:00-17:30 本をさがす
2/6	2/7	2/8 15:00-16:00 OPAC入門	2/9 11:00-11:30 雑誌をさがす	2/10
2/13	2/14 17:00-18:00 FELIX	2/15	2/16	2/17 15:00-15:30 統計をさがす
2/20 11:00-12:00 Web of Science	2/21 17:00-17:30 新聞をさがす	2/22	2/23	2/24
2/27	2/28 15:00-16:00 電子ジャーナル	3/1	3/2 17:00-18:00 OPAC入門	3/3
3/6 15:00-15:30 本をさがす	3/7	3/8 11:00-12:00 FELIX	3/9	3/10
3/13	3/14	3/15	3/16 15:00-16:00 Web of Science	3/17 11:00-11:30 雑誌をさがす
3/20	3/21	3/22	3/23	3/24 11:00-12:00 電子ジャーナル

その他の詳細は、講習会ホームページ

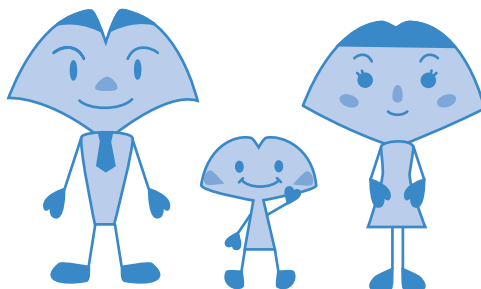
<http://www.dl.itc.u-tokyo.ac.jp/gacos/training.html>
をご覧ください。

●問い合わせ先 学術情報リテラシー係（22649）
literacy@lib.u-tokyo.ac.jp



EVENT LIST

行事名	日時	場所	連絡先・HP等
第31回ビジネスローセンター公開講座 「投資協定の現代的意味—投資協定仲裁と投資保護—」	1月19日(木) 13:30~	法学部21番教室	ビジネスローセンター 03-5805-7298
希望学プロジェクトセミナー 「オーラルヒストリーのキャリア研究における可能性」	1月26日(木) 15:00~	社会科学研究所 大会議室	社会科学研究所 希望学プロジェクト http://project.iss.u-tokyo.ac.jp/hope/seminar.html hope@iss.u-tokyo.ac.jp
第116回東文研セミナー 「米・砂糖・コーヒーから見た現代アジア経済史」	1月27日(金) 13:00~	東洋文化研究所 3階第1会議室	東洋文化研究所 加納啓良 電話: 03-5841-5863 E-mail: hkano@ioc.u-tokyo.ac.jp http://www.ioc.u-tokyo.ac.jp/
神経生化学・健康環境医工学合同セミナー “Elements of a neurobiological theory of the hippocampus”	1月27日(金) 16:00~	医学系研究科教育研究棟 14階 鉄門記念講堂	尾藤晴彦(神経生化学教室03-5841-3560) 掛山正心(健康・環境医工学 03-5841-1415)
第2回 愛知演習林シンポジウム 一緑のダム研究の最前線と市民・行政・研究者の協働 ※1322号参照	1月28日(土) 29日(日)	瀬戸蔵 2階つばきホール(1月28日) 東京大学愛知演習林赤津宿泊施設講義室(1月29日)	愛知演習林 http://www.uf.a.u-tokyo.ac.jp/aichi/sympo2006.html
「東京大学ナノバイオ・インテグレーション研究拠点」 設立記念シンポジウム	2月3日(金) 12:30~	医学系研究科教育研究棟14階 鉄門記念講堂	ナノバイオ・インテグレーション研究拠点事務局 担当: ヤーネス TEL: 03-5841-1509 FAX: 03-5841-1510 E-mail: CNBI@cnbi.t.u-tokyo.ac.jp URL: http://park.itc.u-tokyo.ac.jp/CNBI/index.html
産学連携フォーラム2006 ※1326号参照	2月3日(金) 13:30~	駒場リサーチキャンパス 駒場コンベンションホール (An棟(総合研究実験棟)2階)	財団法人生産技術研究奨励会産学連携支援室 FAX: 03-5452-6096 E-mail: fpistol1@iis.u-tokyo.ac.jp http://www.iis.u-tokyo.ac.jp/shourei/
学術講演会「免疫と感染:話題の創薬ターゲット」	2月4日(土) 10:00~	薬学系総合研究棟 2F 講堂	大学院薬学系研究科生体異物学教室 東伸昭 土屋容子 Tel: 03-5841-4870 e-mail: cancer@mol.f.u-tokyo.ac.jp http://www.f.u-tokyo.ac.jp/~cancer/labpage/navigation/colloquium.html
サステナビリティ学連携研究機構(IR3S) 公開シンポジウム 「サステナビリティ学が拓く地球と文明の未来」	2月4日(土) 13:00~	安田講堂	サステナビリティ学連携研究機構(IR3S) http://www.ir3s.u-tokyo.ac.jp/ 担当: 研究協力部 サステナビリティ学支援グループ 蔭山 内21386
フェムトワールドへの誘い	2月5日(日) 9:30~	大学院理学系研究科附属原子核 科学研究センター	大学院理学系研究科等研究協力係 TEL: 03-5841-8317 FAX: 03-5841-8777 nagata@adm.s.u-tokyo.ac.jp http://www.jsps.go.jp/hirameki/ht107_tokyo.html
第117回東文研セミナー 「民俗学の論点2005」	2月11日(土) 10:00~	東洋文化研究所 3階大会議室 (出席者の人数により、同じ階 で部屋が変わることあり)	東洋文化研究所 菅豊 電話: 03-5841-5875 http://www.ioc.u-tokyo.ac.jp/
21世紀COEものづくり経営研究センターシンポジウム 「ものづくり経営とひとつづくり」	2月16日(木) 13:00~	安田講堂	日経ビジネスクリエーション誌事務局 Tel: 03-5452-2505 受付時間: 10:00~17:00(土、日、祝日は除く) http://www.adnet.jp/nikkei/bizcore/04.html
原洋之介教授 最終研究報告 「アジア研究と経済学の狭間で」	3月16日(木) 14:00~	東洋文化研究所 3階大会議室	東洋文化研究所 http://www.ioc.u-tokyo.ac.jp/
行事名	開催期間	場所	連絡先・HP等
21世紀COEものづくり経営研究センター 「ものづくり寄席」	10月~3月	三菱ビルコンファレンススクエ アエムプラス (東京駅丸の内南口)	ものづくり経営研究センター 03-5841-2272 http://www.ut-mmrc.jp/topics/yose.html
公開講座 「高校生のための金曜特別講座」(冬学期) ※1319号参照	10月14日(金)~ 2月10日(金)	教養学部11号館 2階1106教室	教養学部社会連携委員会「公開講座」担当係 03-5454-6637 http://www.c.u-tokyo.ac.jp/jpn/kyoyo/koukai2005winter.html
「重井陸夫博士コレクション ウニの分類学」展	10月15日(土)~ 4月16日(日)	総合研究博物館本館	総合研究博物館 ハローダイヤル 03-5777-8600 http://www.um.u-tokyo.ac.jp
第32回生研イブニングセミナー 「環境に優しく、安心・安全で、快適な交通の未来に 向けて」	11月25日(金)~ 1月27日(金) 各金曜日 18:00~	生産技術研究所 駒場リサーチキャンパス 総合研究実験棟(An棟) 3階大会議室	生産技術研究所 総務課広報企画係 Tel 03-5452-6017~8 http://www.iis.u-tokyo.ac.jp/announce/
特別展示「アフリカの骨、縄文の骨—遥かラミダスを 臨む」展 ※1326号参照	11月26日(土)~ 4月16日(日)	総合研究博物館本館	総合研究博物館 ハローダイヤル 03-5777-8600 http://www.um.u-tokyo.ac.jp
新「会社法」連続講義(全5回)	1/24(火), 1/26(木) 1/31(火), 2/2(木) 2/7(火)各18:00~	法文1号館25番教室	社団法人商事法務研究会 http://www.shojihomu.or.jp/shinkaihashou.html Tel: 03-5614-5637 Fax: 03-5643-7186 e-mail: tokyo2006u@shojihomu.or.jp
21世紀COE国際ワークショップ International Workshop on Energy Budget in the High Energy Universe	2月22日(水)~ 24日(金)	柏キャンパス総合研究棟 6階大会議室	http://ebhu.astron.s.u-tokyo.ac.jp/index.html



人事異動（教員）

発令年月日	氏名	異動内容	旧（現）職等
（退 職）			
17.12.15	陳 献	辞 職（九州大学デジタルメディシン・イニシアティブ教授）	大学院新領域創成科学研究科助教授
17.12.31	中村正治	// （京都大学化学研究所附属元素科学国際研究センター教授）	大学院理学系研究科助教授
//	西山信好	//	大学院薬学系研究科助教授
（採 用）			
17.12.16	若杉桂輔	大学院総合文化研究科助教授	京都大学大学院工学研究科助手
18.1.1	大迫誠一郎	大学院医学系研究科附属疾患生命工学センター助教授	独立行政法人国立環境研究所環境健康研究領域分子細胞毒性研究室主任研究員
（昇 任）			
17.12.16	富田京一	大学院医学系研究科助教授	医学部講師
//	根本圭介	大学院農学生命科学研究科教授	アジア生物資源環境研究センター助教授
//	永田宏次	大学院農学生命科学研究科助教授	大学院農学生命科学研究科助手
//	大湊隆雄	地震研究所附属火山噴火予知研究推進センター助教授	地震研究所附属火山噴火予知研究推進センター助手
18.1.1	小西清貴	大学院医学系研究科助教授	大学院医学系研究科講師
//	尾上圭介	大学院人文社会系研究科教授	大学院人文社会系研究科助教授
//	月本雅幸	大学院人文社会系研究科教授	大学院人文社会系研究科助教授
//	森田一樹	生産技術研究所教授	生産技術研究所助教授

※退職後又は採用前の職等については、国の機関及び従前国の機関であった法人等のみ掲載した。

東京大学における教員の任期に関する規則に基づく専攻、講座、研究部門等の発令については、記載を省略した。

津田公一名誉教授

名誉教授津田公一先生は平成17年8月21日午前0時30分、肺炎のため逝去されました。享年83歳でした。通夜、葬儀・告別式は都下・町屋斎場にて執り行われ、先生を偲んで多数の方々が参列されました。

津田先生は大正10年8月29日満州（現在の中国東北部）

大連市にお生まれになりました。ご両親とも神道を熱心に信仰され、先生の気高い世界観はこのような家庭環境の下で育まれました。東京高等学校高等科理科乙類、東京帝国大学第一工学部と進まれ、航空学科航空原動機専修を昭和18年9月に短縮卒業されました。卒業後直ちに東京帝国大学第一工学部講師、陸軍航技中尉として陸軍燃料廠に勤務された後、昭和24年5月東京帝国大学助教授に任ぜられ、昭和32年11月工学博士の学位を授与されました。

昭和37年6月東京大学教授に昇任、昭和57年4月に定年により退官されるまで、機械力学ならびに船用内燃機関の講座を担当され、機械力学、特に内燃機関の力学分野において、卓越した独創力と柔軟な思考力を持って多くの研究業績をあげると共に、崇高な理念に従って学生の教育指導に献身し、学会および産業界に多くのすぐれた人材を育てあげられました。この間昭和39年に文部省在外研究員としてカールスルーエ工科大学に長期海外出張され、機械要素学の権威であったコルマン教授の影響を受けられました。また、在任中は多くの重責を勤めて大学の管理運営に携わり、その発展のために貢献されました。



ご退官の後は、横浜国立大学教授に迎えられ、同工学部における機械力学講座の初代教授としてその基礎を築かれました。その後工学院大学教授として招かれ、平成元年まで同学の研究・教育に貢献されました。これらの在任中に、日本船用機関学会会長を務められるなど関連学協会の運営と振興にも力を注がれました。また一方では、文部省の研究行政、通商産業省の産業技術行政、運輸省の運輸技術行政、環境庁（現環境省）の環境技術行政、自動車ならびに船舶の高速化・高効率化・高信頼化および低公害化のための技術開発など、多くのプロジェクトの企画実施に終始先導的立場から携わり、産、官、学界に指導的役割を果たされました。

先生は、特に内燃機関および関連系の力学的分野における独創的研究で、世界的に高い評価を得ました。すなわち、往復式内燃機関におけるクランク軸の連成振動に基礎理論とその応用、同じく動弁系力学の基礎理論とその応用、ピストンスラップの力学、がたのある駆動系の振動問題、浮動ブッシュ軸受の挙動、などの先生の研究成果が、今日の世界中のあらゆる陸用、船用内燃機関の高速化、高効率化、高信頼化、低振動・騒音化をもたらしたと言っても過言ではありません。

先生はこれらの業績によって、昭和54年東京都科学技術功労賞、平成9年勲三等旭日中授章などの表彰を受けられました。わが国の科学技術の信頼性と国際競争、科学技術の社会への貢献などがますます重要になってきている今日、荒海上の船の羅針盤の如く、高所から我々が進むべき方向を指し示される先生を失うことは、わが国にとって大きな損失であります。

津田公一先生のご逝去は誠に痛惜の念に耐えません。ここに謹んで哀悼の意を表し、先生のご冥福をお祈り申し上げます。終わりに、8月21日付で正四位に叙せられた事を申し添えます。

(大学院工学系研究科)

朝田泰英名誉教授

本学名誉教授朝田泰英先生は平成17年11月23日午後0時50分に心筋梗塞で逝去されました。享年67歳でした。通夜、葬儀・告別式は江古田斎場で行われ、朝田先生を偲んで多数の方が参列されました。

朝田先生は昭和13年9月30日神奈川県にお生まれになりました。昭和37年東京大学工学部機械工学科を卒業、大学院を修了され、三菱重工業株式会社にご勤務の後、昭和44年東京大学工学部に講師として任官されました。昭和45年東京大学助教授、昭和55年東京大学教授に任ぜられ、機械工学科応用力学第一講座を担任されました。昭和46年には東京大学より工学博士の学位を授与されています。先生は平成11年に退官されるまで長年にわたって本学の教育と研究に多大な貢献をなされ、退官後は東京大学名誉教授の称号を授与されました。

ご研究は応用力学の広範な範囲に及びますが、中でも機械材料、構造の高温強度、高温構造設計の分野において優れた研究業績をあげられました。特に、非弾性力学、クリープ疲労相互作用の研究成果は極めて顕著な業績であり、世界的に高く評価されています。学会活動もめざましく、日本機械学会材料力学部門長、日本溶接協会理事、日本高圧力技術協会理事などを歴任されましたが、



とりわけ、国際原子炉構造工学会議、国際クリープ会議、国際圧力容器工学会議など多くの国際会議の組織委員長として国際的に活躍されたことが特筆されます。

先生は東京大学在任中より発電設備技術基準の整備発展に注力されました。ご退官後も財団法人電力中央研究所研究顧問、社団法人火力原子力発電技術協会技術顧問としてわが国産業界の指導にあたりました。日本機械学会発電用設備規格委員会を創設して民間自主規格の方向付け、規格作成に貢献されたほか、米国機械学会規格基準評議会評議員、国際標準化機構第11技術委員会日本代表委員などとして、文字通り世界的な立場で指導的役割をはたされました。

先生のこうしたご業績に対し、昭和52年日本機械学会論文賞、平成8年国際圧力容器工学会議貢献賞、平成9年米国機械学会特別貢献賞、平成10年ASTM Sam Tour賞、平成11年科学技術庁原子力安全功労者表彰、平成14年経済産業大臣表彰、さらに、平成16年には規格基準関連において世界で最も権威ある米国機械学会Langer賞を日本人としては初めて受賞されました。

先生は日頃より、ものごとの本質を見抜くこと、道筋の論理性、合理性の大切さを説かれ、その指導は温かく、時として厳しいものでありました。世界中を駆け巡っていた先生に接していた者にとってはまさに突然の訃報であり、先生の温かい人柄を思い起こすにつれ、ご逝去はまことに痛惜の念に堪えません。ここに朝田先生の生前のご功績とお人柄を偲び、衷心よりご冥福をお祈り申し上げます。

(大学院工学系研究科)

米田幸夫名誉教授

名誉教授米田幸夫先生は、平成17年11月25日午前9時2分に肺気腫でご逝去されました。83歳でした。

先生は、大正11年3月12日兵庫県に生まれ、昭和19年9月東京帝国大学第一工学部応用化学科を卒業後、昭和24年9月同学部大学院特別研究生終了、昭和25年5月31日東京大学第一工学部助教授に任ぜられ、昭和35年11月工学博士の学位を受けられました。昭和36年7月には東京大学工学部教授（合成化学科）に昇任、工業触媒化学講座の担任となり、昭和57年4月1日限り停年により退職されました。昭和57年5月には東京大学名誉教授の称号を授与されました。

この間、工業触媒化学、工業物理化学、計算機工業化学などの分野で広汎かつ独創的な研究を行い、これらの分野において指導的役割を果たすとともに、その識見と人格をもって学生および後進の指導・教育に力を尽くされました。

東京大学においては大学院化学系研究科合成化学課程主任、工学部附属原子力工学研究施設運営委員会、工学部附属総合試験所所長補佐を歴任され、また昭和51年12月より2年間評議員として東京大学の運営とその発展のため多くの貢献をされました。

東京大学外にあっては、慶應義塾大学の非常勤講師として教育に、あるいは、日本原子力研究所主任研究員として研究指導に当たられ、また学術審議会専門委員、産業技術審議会専門委員としてわが国の学術・教育のため尽力されました。また、昭和56年1月より昭和60年7月まで日本学術会議第12期および第13期会員（5部）に選任され、第13期では5部副部長として日本学術会議の改



革にも尽力されました。学会関係では、触媒学会会長、日本化学会「化学と工業」編集委員長等として関連学協会会の運営に当たられ、多大の貢献をされました。

不均一系触媒反応設計の方法論に関する研究では、触媒設計の基礎となる触媒物性の定量的測定に意を注がれ、超強酸から超塩基にわたる酸塩基強度分布測定を確立されました。さらに触媒酸性質・触媒酸化力と触媒活性・選択性などの間に、線形自由エネルギー関係の成立することを明らかにし触媒反応設計の基本概念を明確にされました。その後、赤外分光法、同位体利用、立体化学的手法により反応中間体の分子レベルまで立ち入ってこの概念を発展させ、表面物性の精密な化学的測定法の提案、分子性酸化物を活用した分子レベルの触媒設計の開拓に顕著な研究業績をあげられました。

計算機利用による反応設計に関しては、計算機を単なる数値計算ではなく「化学の論理」に利用するという先見的な着想に基づき、化学用計算機入力言語、有機化合物の基礎的物性データ検索・推算システム、気相ラジカル反応の全反応速度・生成物予測システムの開発をされました。その他数理計画法を用いた反応経路の工学的探索システム、分子座標自動算出プログラムなどを実用化に供されました。

東京大学退官後も、昭和58年4月1日から平成7年3月31日まで東海大学開発技術研究所教授として奉職されました。さらに、情報化学の振興のため（社）日本化学会情報化学部会部会長として、また科学技術庁材料・反応設計に関するプロジェクトを主催するなどリーダーシップを発揮し続けられました。

これらの研究・活動はいずれも工学としての化学反応設計という立場に立ったもので、そのすぐれた業績により昭和56年日本化学会賞、平成10年には勲三等旭日中綬章を受賞されました。

米田先生のご逝去は誠に痛惜の念に耐えません。ここに謹んで哀悼の意を表し、先生のご冥福をお祈り申し上げます。

(大学院工学系研究科)

表紙写真解説

12月14日（水）、本学医学部附属病院において「移植用テラーメイド人工骨の成形技術開発」の記者会見が行われました。戌年の本年、「学内広報」新年号の表紙に登場してくれたのは、人工骨置換手術を受け、記者会見にも出席したウェルシュコルギー犬のミィちゃんです。

今年はいぬ年で、私たちいぬは何かと話題になりそうな1年です。

私はミィという名前のウェルシュコルギー犬の女の子です。6さいになります。半年以上前に頭のでっぺんに固いこぶができて、近所のじゅういさんに行きました。どうも骨のがんかも知れない、と言われて、東大の動物いりょうセンターにしょうかいされました。

東大の先生が新しいぎじゅつを使ってしゅじゅつをしてくれたおかげで、すっかり元気になりました。

この写真をとってもらったのは、この「じんこうこつ」の記者発表の日で、私はすごくきんちょうした顔をしていると思います。

(ミィ ウェルシュコルギー犬 メス 6歳)



ミィちゃんに移植した人工骨は、外傷、腫瘍、先天性疾患などに伴う大きな骨欠損を修復するために開発されたものです。特に、顔面や頭部の大きな骨欠損では、全く同じ外観でその部位にぴったりとはまり、かつ自分の骨に置き換わる人工骨が理想的です。材料は骨塩の主成分である α リン酸三カルシウムで、これにインクジェットプリンター方式で水分を加えて薄い人工骨のシートをつくり、それを積み重ねて三次元積層造形により作製したものです。このような積層造形は、CT画像からの三次元データを基に行われるため、欠損部の形態にきわめて近く、また内部構造を含めて自由に設計することも可能です。この技術は、ベンチャー企業（株式会社ネクスト）と東大医学部附属病院ティッシュ・エンジニアリング部、理化学研究所の協力で開発されました。

ミィちゃんの腫瘍は多葉状骨腫瘍で、転移は少ないものの局所浸潤の強い腫瘍であり、大きく切除する必要がありました。そこで、まず手術で腫瘍部を大きく切除し、そこにできた骨欠損のCT画像を基に人工骨を作製し、それを移植しました。現在術後5ヵ月以上経過していますが、外観からは骨移植が行われたことは全くわからないほどであり、腫瘍の再発もなく元気に過ごしてくれています。今後も状況を見守って行きたいと思っています。

大学院農学生命科学研究科 獣医外科学研究室・教授 佐々木伸雄

Contents

特別記事

学内広報 リニューアル！	2
--------------	---

NEWS

一般ニュース

今年度の定年退職教員は54名	4
平成17年度第2回「東京大学外国人留学生支援資金奨学生証書授与式」開催される	5

部局ニュース

第1回ソウル国立大-清華大-東大工学系合同シンポジウムおよびサテライトワークショップの開催	5
人文社会系研究科外国人留学生見学旅行を実施	6
「2005年大学生交流プログラム」開催される	7
三鷹国際学生宿舎で「三鷹市民と三鷹国際学生宿舎生との集い」開催される	7
柴崎教授、不斉触媒分野引用回数で世界第1位に	8
薬学系研究科留学生見学旅行を実施	8
国際シンポジウム「日本とポルトガル」をリスボンで開催	9
海洋研究所防災訓練が行われる	10
公開講座「標本は語るー自然の体系を目指して」の終了	10
アフガニスタン医学教育研修を実施	11

キャンパスニュース

第52回水上運動会開催	12
-------------	----

コラム

◆Flags運動部紹介 No. 6	13
◆コミュニケーションセンターだより No. 10	14

INFORMATION

シンポジウム・講演会

「東京大学ナノバイオ・インテグレーション研究拠点」設立記念シンポジウムのお知らせ	14
--	----

募集

平成18（2006）年度大学院情報学環教育部研究生募集	15
-----------------------------	----

お知らせ

「教養学部報」第489（1月11日）号の発行	15
データベース定期講習会のお知らせ	16

EVENT LIST

事務連絡

人事異動（教員）	18
----------	----

訃報

津田公一名誉教授	19
朝田泰英名誉教授	20
米田幸夫名誉教授	21

表紙写真解説

淡青評論

学問のすすめ（学問之勤）	24
--------------	----

編集後記

縁起をかつぐという意味もあり、新年第1号で学内広報をリニューアルいたしました。今後は教職員の皆さんすべてに可愛がられる等身大メディアとしてすくすくと成長してほしいと思っています。ニュースも、ご意見も、そして川柳も（！）、ぜひぜひ、お寄せください。ちなみに、次号の巻頭特集では、学内広報が出来上がる過程を紹介いたします。皆さんからお寄せいただいた原稿はどのようにして誌面となっていくのか？ ご期待ください。（し）



七徳堂鬼瓦

学問のすすめ（学問之勸）

私は東海村で中性子散乱研究の全国共同利用研究の御世話をしているが、近頃、各地の大学の先生から「研究・教育以前にメンタルケアが必要な学生が多い」とよく聞くようになった。どうやら全国的に蔓延している病気のようなものである。そんな折、本郷出張の際に生協で「学問のすすめ」を見つけて思わず買ってしまった。福沢諭吉のこの「学問之勸」を知らない人はまずいないだろう。明治維新もない混乱期の日本において、日本が西洋の侵略から如何に独立を守り、近代化をはかるにはどうしたらいいかを、

わかりやすい言葉で明快に論じた啓蒙書である。初版は22万部に及び、当時の日本の人口3500万人のうち160人に一人は読んだと言われる大変なベストセラーであった。その底流にあるのが「学問のすすめ」である。士農工商に慣らされていた明治初期の国民にとってこの言葉がどれほど希望を与えたかは、われわれの想像を超えるものがある。今日にも通用する名言が随所にちりばめられている。「天は人の上に人を造らず、・・・」、「人は生まれながらにして貴賤貧富の別なし」などなど。当時の人々はこうした言葉に、どれほど心を揺さぶられ、力強く近代日本を築いていったことか。

恥ずかしい話だが私はこの本を最近になって初めて読んだ。新聞紙上では、毎日のように日本の教育問題を取り上げた見出しがおどっている。学会や講義などで海外に出張する機会が多いが、特にアジア諸国訪問先の若者の向学心、探求心の強さに驚かされることが多い。振り返って、我々日本人の志はどこにいったのか。日本で学生時代を過ごした李登輝前台湾総統は新渡戸稲造の「武士道」を再考し、その著「武士道解題 ノーブレス・オブリージュとは」の中で、私たち日本人が失いつつある勉学意欲や精神的価値観に警鐘を鳴らしている。「学問のすすめ」こそが、病んでいる日本人に必要なのではないか。

最高学府たる東大にて「学問のすすめ」とは僭越千万であるが、今一度、先哲、啓蒙家の書に触れ、ともに日本の教育について考えていければと思う。

柴山充弘（物性研究所）

（淡青評論は、学内の教職員の方々にお願いして、個人の立場で自由に意見を述べていただく欄です。）

この「学内広報」の記事を転載・引用する場合には、事前に広報委員会の了承を得、掲載した刊行物若干部を広報委員会までお送りください。なお、記事についての問い合わせ及び意見の申し入れは、総務部広報課を通じて行ってください。

No. 1327 2006年1月11日
東京大学広報委員会

〒113-8654
東京都文京区本郷7丁目3番1号
東京大学総務部広報課
TEL：03-3811-3393
e-mail：kouhou@ml.adm.u-tokyo.ac.jp
http://www.u-tokyo.ac.jp/index_j.html